

四国4県連携施策

平成23年度

野生鳥獣（ニホンジカ）捕獲実験事業報告書

平成24年3月

（株）野生動物保護管理事務

目次

はじめに	1
第1章 調査目的および調査項目	2
1. 調査目的	2
2. 調査実施内容	2
第2章 誘引および捕獲の状況	15
1. 誘引餌の採食状況	15
2. センサーカメラによる撮影状況	21
3. 誘引状況の記録について	23
第3章 GPS による行動追跡調査	25
1. 捕獲個体について	25
2. 放獣後の行動	26
第4章 捕獲圧の影響	28
1. わな設置地点周辺における捕獲圧	28
2. GPS 追跡調査地点周辺における捕獲圧	32
参考文献	34

はじめに

ニホンジカの生息数の増加は、農林業に対する被害の拡大によって人間生活に悪影響を与えるだけでなく、自然植生に対する食圧の増加を通じて生物多様性の損失の一因ともなっている。かつては生息数の少なかった四国山地の高標高域でもニホンジカの増加による森林生態系への影響が問題となっており、里山における対策と合わせて個体数調整により被害の低減が図られているところである。

一方、ニホンジカの個体数調整の担い手である狩猟免許所持者の数は減少傾向にあり、特に銃猟免許所持者数の減少は個体数調整を効果的に進める上で大きな支障となっている。今後は狩猟者の高齢化が進むことが予測されており、捕獲の担い手不足の問題はより大きくなる可能性がある。また、四国四県県境部の急峻な山岳地帯では、銃器による捕獲は技術的にも労力的にも困難な場所が多く、新たな捕獲技術の開発が求められているところである。

四国4県連携施策として行われた平成22年度野生鳥獣(ニホンジカ)捕獲実験事業では、EN-TRAPを基本構造とした2種類の罠いわなを用いてニホンジカの捕獲実験が行われた。同業務では山岳地帯や里地周辺の状況に応じたトリガーの仕組み、誘引餌の種類、部材の組立方法等の検討が行われ、わなの構造・強度・ニホンジカの誘引法などについていくつかの技術的な課題が抽出された。

本業務はそれらの課題を解決するための構造の改善を行い、罠いわなによる捕獲方法をより確実なものとすることを目指した。また、有害捕獲が行われている場所でニホンジカがどのような動きするのか、GPS発信器を装着して検証することにした。捕獲対象は高知県と愛媛県の県境周辺地域として、1頭の捕獲を行い、GPSを装着後に放獣して行動を調査した。

本業務の成果のうち、調査結果に関する事項は本報告書で記述した。罠いわなの設置と改良に関する事項は、別冊として「罠いわな制作マニュアル」でまとめた。また、写真記録も別冊とした。

本業務は、野生鳥獣対策四国連携協議会が、株式会社野生動物保護管理事務所に委託して行ったもので、現場における作業は同事務所職員のほか、参画する四国4県の担当者、わなの設置場所となる市町および猟友会支部との協働により行われた。設置作業および誘引捕獲の管理に関しては、ファーム鳥取の福留克信氏の協力を、誘引餌の点検・補給・捕獲個体の記録および処理については、香川県猟友会小豆支部、小豆島町農林水産課、徳島県猟友会木屋平地区猟友会、四万十市西土佐総合支所産業建設課・林業課西土佐林業分室、高知県猟友会大宮支部、松野町役場産業振興課、松野猟友会の協力を得た。ここに深く感謝の意を表す。